

胎嚢が確認出来ない妊娠初期の黄体嚢胞破裂と卵巣妊娠破裂の比較検討**1. 研究の対象**

- ① 2014年1月～2021年12月までに、単孔式腹腔鏡下手術により治療を行った妊娠初期の黄体嚢胞破裂症例と卵巣妊娠破裂症例。
- ② 当科で分娩までの経過が観察できた症例あるいは電話や電子メールで予後が解析できた症例。
- ③ 治療に対する患者の同意が得られたもの。

2. 研究目的・方法

黄体嚢胞破裂と卵巣妊娠破裂は、共に、卵巣周辺に血腫像を認める点で、超音波検査等の画像診断では類似した所見を示す。黄体嚢胞破裂は、妊娠の有無に拘わらず、発症するが、妊娠を伴わない黄体嚢胞破裂と卵巣妊娠の鑑別は、胎盤由来のホルモンであるヒト絨毛性ゴナドトロピン(血中 β -hCG)の測定により、卵巣妊娠では、 β -hCGが高値となることから、比較的容易である。一方、子宮内胎嚢の確認出来ない妊娠初期の黄体嚢胞破裂(グループA)と卵巣妊娠破裂(グループB)では、共にhCGが高値であることから、その鑑別が困難なことが多いが、グループAの場合には、母体のみならず胎児の安全性も考慮して手術を行う必要がある。今回の研究では、グループAとグループBの間での何らかの臨床的な鑑別点を見つけ、より手術を安全に行えるようにすることを目的とした。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

2014年から2021年までに当科で単孔式腹腔鏡下手術により治療を行ったグループA(6例)とグループB(7例)を対象として、電子カルテの記録より、術前や周術期の診療データについて後方視的検討を行った。また、グループAでは、術後の妊娠の予後に付いても検討を追加した。

なお試料・情報については、個人を特定できないよう、匿名化してしようすることとする。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

研究責任者: 岐阜県立多治見病院産婦人科 竹田明宏

住所: 岐阜県多治見市前畑町5丁目161番地

電話: 057222-5311